

ハロー インフォメーション

2020年12月

159号

NTT東日本からのお知らせ

NTT東日本ホームページ
<https://www.ntt-east.co.jp/>



「ユニバーサルサービス料」について

NTT東日本では、110番や119番などの緊急通報、公衆電話、山間部や離島を含む地域における固定電話通信などのユニバーサルサービスを、いつでも、どこでも、誰もが利用可能な料金でお客さまにご利用いただけるように、通信網の維持・保守に取り組んでいます。このユニバーサルサービスを維持するために、2007年1月より各電話会社が「ユニバーサルサービス支援機関」*1を通じて費用を出し合う「ユニバーサルサービス基金制度」がスタートしました。

NTT東日本は従来から経営効率化に取り組み、人件費や経費の削減など、あらゆる費用を対象に大幅なコスト削減を実施しておりますが、ユニバーサルサービスを取り巻く環境は、

- ①携帯電話の普及拡大および光IP電話やアプリケーションサービスなどの他事業者が提供するサービスとの競争の進展
- ②従来、NTT東日本と接続事業者が応分に負担してきたコストの一部を基本料コストに付け替えるという制度変更*2

などがあり、ユニバーサルサービスの収支は2019年度で▲240億円の赤字となっております。

一方、ユニバーサルサービス基金制度により支援される額は、実際のサービス提供に要した費用を用いて算定するのではなく、長期増分費用モデル*3に基づく費用で算定しており、かつ、加入電話については、著しい高コストの地域*4に対象が限定されていることなどから、実際の赤字の一部となっております。

今般、ユニバーサルサービス支援機関が定める各電話会社の1電話番号当たりの負担額(番号単価)は、2021年1月より月額2円から3円に見直されることとなりました。これにともないまして、現在お客さまにご負担をいただいている「ユニバーサルサービス料」*5についても、1電話番号当たり月額3円(税抜)に変更させていただきます。

NTT東日本は、基金制度の下で、今後もユニバーサルサービスの維持に努めてまいります。みなさまのご理解とご協力のほど、よろしくご願い申し上げます。

※1 一般社団法人電気通信事業者協会が総務大臣より指定されています。

※2 2005年度から交換機コストの一部を段階的に基本料コストに付け替えるものです(2009年度以降は全額付け替え)。なお、このコストのうち、き線点RT(メタルケーブルに収容する電話などの通信を加入者交換機まで光ファイバーで伝送するための多重化装置)から加入者交換機間の伝送路のコストの一部については、2008年度より基本料コストから段階的に交換機コストに戻すこととされております(2011年度以降は全額付け替え)。

※3 通信網の費用を実際の費用発生額ではなく、現時点で利用可能な最も低廉で最も効率的な設備と技術で新たに構築した場合の費用額に基づいて計算する方式です。

※4 全国の加入数の4.9%の地域とされています。

※5 ユニバーサルサービス料は、ユニバーサルサービス支援機関が定める番号単価と同額です。また、適用する電話番号は、加入電話サービスなどの契約者回線に係る電話番号および付加サービスに係る電話番号です。

①料金額 [1電話番号当たり月額] ユニバーサルサービス料 3円(税抜)

②実施時期 2021年1月1日(金)

③その他

ユニバーサルサービス支援機関が定める番号単価については、一般社団法人電気通信事業者協会のホームページ(<https://www.tca.or.jp/universalservice/>)において公表されています。

固定電話回線数の現状

2000年度末 → 2020年6月末

6,178万回線

1,663万回線

競争の進展などにより
▲4,515万回線

NTT東日本の経営効率化

2000年度 → 2019年度

2兆7,604億円

1兆3,794億円

コスト削減により営業費用を
約▲1兆4,000億円

ユニバーサルサービス収支の現状とユニバーサルサービス基金制度による支援額

NTT東日本では継続的なコスト削減に取り組んでおりますが、NTSコスト*1の負担方法の変更などにより、2019年度におけるユニバーサルサービス収支は▲240億円の赤字となっております。一方、支援額は、長期増分費用モデルに基づく費用を用いて算定しており、かつ、加入電話については、著しい高コストの地域を対象が限定されていることなどから、ユニバーサルサービス収支の赤字の一部である、40億円が支援されることとなります。

サービス名	2019年度			基金による支援額
	営業収益	営業費用	営業利益	
加入電話・基本料	1,667億円	1,885億円	▲218億円	19億円
第一種公衆電話 (市内、離島通信)	5億円	25億円	▲20億円	20億円
緊急通報	-	2億円	▲2億円	0.3億円
合計	1,672億円	1,911億円	▲240億円	40億円

支援対象の地域と費用の絞り込み

- 加入電話(基本料・緊急通報)の支援対象は、著しい高コストの地域に限られており、さらに加入電話・基本料の支援される費用の範囲は、著しい高コストの水準*2を上回る部分に限られています。

支援を受けても残りの赤字(▲200億円)は
NTT東日本自身が負担

*1 NTSコスト(Non-Traffic Sensitive Cost)とは、交換機設備のうち、通信量の増減によって変化しない装置のコストをさします。

*2 平均コストに標準偏差の2倍を加えた額とされています。

ユニバーサルサービス料とユニバーサルサービスコストの負担について

ユニバーサルサービスの維持に必要な費用を賄うための各電話会社の1電話番号当たり負担額(番号単価)は、2021年1月から月額3円に変更されることとなりました。これにともないまして、現在お客さまにご負担いただいている「ユニバーサルサービス料」についても1電話番号当たり月額3円(税抜)に変更させていただきます。

NTT東日本・NTT西日本のユニバーサルサービスの赤字 ▲572億円
(うち、NTT東日本▲240億円)

NTT東日本・NTT西日本の負担 506億円

基金からの支援 67億円

毎月の電話番号利用数に応じて、1電話番号当たり3円を拠出

お客さまに
「ユニバーサルサービス料」
としてご負担をいただいております

5億円を拠出

NTT東日本

NTT東日本のお客さま

5億円を拠出

NTT西日本

NTT西日本のお客さま

56億円を拠出

他の電話会社
(携帯電話事業者など)

他の電話会社のお客さま

※事業者別の拠出額は、
2020年6月末の電話番号利用数に
基づく試算値です。

NTT東日本は、基金制度の下で、今後もユニバーサルサービスの維持に努めてまいります。
みなさまのご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

「ユニバーサルサービスについて」ホームページ ▶ <https://www.ntt-east.co.jp/univs/>

ハローページ発行・配布終了のお知らせ

2021年10月以降発行する最終版をもってハローページは終了します。掲載内容の変更を希望される場合は局番なしの116にお申しつけください。詳細はNTT東日本の公式ホームページをご覧ください。なお、視覚・聴覚障がい等のあるお客さまに無料で電話番号を案内する「ふれあい案内」をご提供させていただいております。詳細はNTT東日本の公式ホームページをご覧ください。

ハローページについて ▶ https://www.ntt-east.co.jp/info/detail/200727_01.html

ふれあい案内について ▶ <https://web116.jp/phone/numguide/>

電話に関する
お問い合わせ・
お申し込み

「116」

携帯電話・
PHSからは「0120-116000」

営業時間：午前9時から午後5時まで
(年末年始を除きます)

ホームページ「Web116.jp」においても、NTT東日本の各種商品、サービスの注文受付や最新情報の提供を行っています。

<https://web116.jp/>

NTT東日本に関する
ご意見・ご要望

お客さま相談センター「0120-019000」

営業時間：午前9時から午後5時まで
(土日・休日および年末年始を除きます)



ミックス
紙

FSC® FSC® C007391

NTT東日本のサービスの契約約款はこちらをご覧ください。 <https://www.ntt-east.co.jp/tariff/>
なお、郵送をご希望のお客さまは、「116」へお問い合わせください。

K20-02317【2012-2101】